

2018年度第6回外洋常任委員会 議事録

日時：2019年(平成31年)1月17日(木) 18:30-20:40

場所：トーヨーアサノ会議室(新宿区新宿5-13-9 太平洋不動産新宿ビル6F)

出席者：(理事)

馬場益弘副会長、中澤信夫副会長、坂谷定生常務、平松隆、橘田佳音利、作田智恵子
(委員会)

ルール委員会外洋規則小委員会委員長 大村雅一

外洋計測委員会委員長 八木達郎

外洋安全委員会委員長 大坪明

キールボート強化委員会委員長 金子純代

国際委員会外洋小委員会 鈴木一行

外洋常任委員会事務局長 鈴木保夫

(順不同、敬称略) 計 12名

議長 常務理事 坂谷 定生

記録 理事 作田智恵子

I. 挨拶

馬場副会長より、『オリンピックもカウントダウンの中、同じ組織なので外洋も協力したい、また、本年
年号が新しくなるが、外洋組織も活性化して強い組織にしていきたい』との挨拶があり、その後議長とし
て坂谷常務理事が指名され、議事に入った。

II. 議事

1. オリンピック・世界選手権小委員会(仮称)の設置について：坂谷常務理事

2024年パリのオリンピックの正式種目に男女ペアによる30ftクラスでの外洋レースが承認されたのを受け、前回のJSAF理事会において『外洋常任委員会の中にそれを担当する小
委員会を設置すること、および外洋に特化したものはその委員会で行う』ことが決まった
が、本日その正式名称及び構成メンバーについて決定したい。

これについて、国際委員会外洋小委員会鈴木氏より草案が提出された。

「委員会設置の目的：現状において男女ペアによるダブルハンドでのレース経験者がほと
んどいないため、2024年のメダルを狙うためには選手の強化育成が必要であり、それをバック
アップする小委員会の設置が必須である。」

これに基づき審議した結果、以下のように決定した。

名称：オリンピック外洋小委員会

構成メンバー：7名とする。ただし今後いろいろな分野での専門の人が必要になった場合は、
必要に応じて召喚する。

委員長 植松 眞

委員 馬場益弘、平松 隆、大村雅一、大坪 明、金子純代、鈴木一行

2020 オリンピックメンバー選考においてはオリンピック強化委員会がメンバーを選定し理事会で決定となっているが、2019 世界選手権に送るメンバーについては、この委員会で選考し外洋常任委員会で決定する。

坂谷常務理事より、世界選手権関連の予算については、外洋常任委員会の予算に組み込んだ（世界選手権推進・参加費等）が、最終的にどこに計上するかは、斎藤理事（財政委員長）に調整をお願いした、また、2019JSAF 方針の実行計画 1. (6) 外洋レース、大型レースの活性化の中に、『外洋艇種目の 2019 世界選手権、2024 オリンピックに対応するための早急な体制の整備と海外派遣システムの強化』を追加したとの報告があった。

2. 2019 世界選手権に向けての今後の進め方：国際委員会外洋小委員会鈴木一行

2024 オリンピックに使用する艇種はモノハル 30ft

コースは 500 マイルの外洋レース 1 本、もしくは 200~300 マイルの外洋レース+インショア 2 本、カテゴリーは 2。

2019 秋に予定されている世界選手権では、レース公示は遅れているが使用艇は 30ft が濃厚。現在男女ミックスでのダブルハンドレースの経験者がほとんどいないので、艇を購入して練習を重ねるといった意見もあるが、まずは既存のレースを使ってレースの経験を積ませることが大事だ。

ただし、2019 に送る選手選考については、あまり時間がないのでどのように選考するかについては、今回発足のオリンピック外洋小委員会に任せることになった。

3. 2019 年度 JSAF 事業方針案と外洋艇推進グループ関係委員会の事業計画案・予算案について：坂谷常務理事

各委員会から J S A F に提出されたものを添付したので、各自確認をしておいていただきたい。

4. ユニバーシアード 2019 について：キールボート強化委員会 中澤副会長

2 年に 1 回派遣していた。過去 2 回ベスト 4 まで行った。2024 年のオリンピックでキールボートが採用される音からコーチを付けて強化すればメダルが取れるのではないかとこのことで、JOC がコーチの分も含め費用を負担することになった。

1 月の学生マッチでの優勝艇のヘルムスマンに代表権を与え、選手として男子 3、女子 2 を選び、チームジャパンとして参加する。

練習費用もできる限り準備する。→オリ特の事業とし、予算計上している。

5. 2019 年度長距離外洋レースについて

① 小笠原レース：外洋三崎 鈴木保夫事務局長

公示にレーティングを IRC 部門、ORC 部門としているがデュアルに修正。

前回同様体験乗船会を行う。→『海、その愛基金』

海洋環境にも取り組む。東京海洋大学と連携し、海中のマイクロプラスチックの調査を

行う。

調査については、今後 JSAF 本部とも関係を持ちたい。

参加艇として以下が手を挙げている。

みろく、トレッキー、アンディアーモ、ガスパール、マンディーナイト、シャロン、ハナミズキ、ビターエンド、マゼランメジャー、万天

② 第 60 回パールレース：坂谷常務理事（パールレース実行委員長）

オリンピックプレ大会、オリンピック関連レースの影響により、2 年間は湘南水域の熱海、伊東の協力で、初島フィニッシュ、表彰式は熱海で準備を進めている。詳細はこれから。

③ 日本一パラオ親善ヨットレース：鈴木保夫事務局長

年明けに新田外洋三崎会長がパラオに行き大統領を含めて打合せをした。

現在 5 艇が参加の意思。ミロク、トレッキー、テティス、マンディーナイト他準備は進んでいる。

6. セーリングの普及啓発に係る最近の動きと外洋団体協力依頼：大村 JSAF 事務局長

以下において外洋団体に協力をお願いする。

① 2019 ボートショー

過去においては販売ブースの開催であったが、減少傾向にあるヨット人口を増やすための策として昨年「セーリングボートビレッジ」コーナーを作り、セーリング普及活動に移行。今年も昨年同様とし、より一層の普及活動を行う。今年はチラシを作り、近郊の学校に配布、チケットプレゼントをし、日ごろヨットと縁のない人の集客を図る。また、各団体に協力をいただき、体験乗船、レース観戦、ヨット教室等々の案内等も行いたい。

② 「海、その愛基金」海洋環境クリーンプロジェクト

加山さんが海洋環境の悪化を憂い、次代を担う子供たちや若者たちとともに海の再生にかかわる活動のための基金を JSAF と作り、活動を始めることになった。

1 月 12 日に発表、加山さん、JSAF とともに 500 万円を出し、2019 年 2020 年で活動する。加山さんのコンサートでも寄付を募り、コンサートの売り上げからも活動資金を捻出する。

海を再生する／海を知る／海を体験する

③ ワールドカップ、プレ大会などレース観戦によるヨットの PR

国際大会の観戦を通してヨットに興味を持ってもらう。

この実現に向け、外洋加盟団体、WC 実行委員会、オリンピック組織委員会、地元自治会等で検討会議を持つ。

7. 今後の外洋常任委員会および関係会議に日程について

理事会の後に常任委員会を開催していたが、同日開催は時間的に難しいので基本前日に行いたいと、坂谷常務理事から提案があった。審議の結果、添付案が承認された。

8. 事務所移転に伴う外洋艇登録申込書並びに抹消届の電子データ化について：継続審議事項
艇登録制度 WG 作田智恵子

新事務所にスペースがないので、移転に伴い外洋艇登録申込書並びに抹消届を電子データ化を検討してきたが、5月の移転が迫る中、急ぎ承認いただきたいとの要請があった。

ただいま2件目の見積もりを依頼しているが、先の見積もりより多少安くなるのではないか。約45万の資金については、総務委員会、常任委員会にも検討をお願いしたいが、1月27日開催の団体長会議で説明し、先に艇登録データの補填金をお願いしている6団体：東海、内海、三崎、三浦、東京湾、湘南に再度拋出をお願いしたい。

このことについては27日の団体長会議でも協議することを確認した。

9. 外洋加盟団体長会議の議題調整について

上記1～6、8議案＋『フラッグリレーの現状報告と今後について』とする。

以上

文責：作田智恵子